

運動会練習に照らして、思うこと……

児童の主体性を育てることの大切さ

シルバーウィークが終わり、9月も下旬。いよいよ運動会が間近に迫って参りました。今年度は、規模を縮小し、また午前中のみで開催となりましたが、今、学校では、運動会用の特別時間割は組まず、通常の体育の時間内に主に学年合同で、団体競技や走競技の練習に取り組んでいます。運動会当日には、練習の成果が出ること、そして、「やってよかった」と児童、保護者、そして先生たちが思える運動会になればと心から願っています。

さて、右の写真は体育委員会の児童が行う「全校リズム運動」の練習の開始の風景。



下の2枚の写真は、応援団の練習後の反省会の風景です。今、毎20分休み、この他にも沢山の高学年の児童たちが、自分たちで運動会を成功させようと自主的・主体的に練習や準備に励んでいます。

このような学校の様子を見ていて、今年はコロナの下でできなかった高学年の自主的・主体的な活動、学校の自治を支える活動の大切さをひしひしと感じています。この経過を私たち教師はしっかりと見守り・支え、運動会終了後には、児童たちをしっかりと褒めたいと思っています。達成感を味わうことが、心の安定や生活の充実につながります。『児童が主役』…学校のあるべきようを感じています。

